

父の生き方！！失敗と苦難の中に 成長させる神 「尊敬を受ける生き方へ～呪いを祝福に変える神2～」

創世記(37:18~35, 42:1~38), 43:1~14

■ 自分を保つ

地球は本来の姿を保つ機能を備えていましたが、近年そのバランスが崩れて保てなくなっているため、異常気象などという形で、私たちの目にもわかる形で現れるようになってきました。人間にも自分を正しく保つことができる為の仕組みが備わっているのです。

最近の研究の中で、p53たん白という物質が注目されています。例えばDNAが、喫煙や生活環境など、何らかの原因によって損傷するとき、p53が正常であるならば、損傷したDNAを修復することができます。DNAの伝達に基づいて成長を遂げるように、人間に限らず全ての被造物は造られています。DNA情報を間違えて成長を遂げようとしていると、神様が造った形ではないものを留めようとする力が働きます。

つまり、おかしいものが出来ても私達は制することができるのです。

その具体的方法として、聖書では喜べとっています。笑うことで、このp53たん白が活発に働くと言われていたのですが、これらのような研究が発達する前から、聖書にはすでに書かれていたことなのです。

悪いものがたとえ出来たとしても決断し選ぶため、私達には聖書があります。間違った方向に進まない為にどうすれば良いか、ということ聖書から学ぶことができ、ハレルヤと喜ぶ道を選ぶことができます。

■ ヤコブの家系

ヤコブは狡猾に騙しエサウから長子の権利を奪った結果、ヤコブ自身も叔父ラバンに騙されました。ヤコブはラバンの次女ラケルとの結婚を望み、ラバンとの約束のもとで7年間働きましたが、騙され長女レアと結ばれてしまいました。

ラケルを妻にするまでさらにもう7年という長い年月がかかってしまった結果、ヤコブはラケルとの間にできた子どもであるヨセフとベニヤミンを偏愛した為、父としての役割を間違えてしまいました。

父ヤコブの偏愛を目の当たりにして育った子どもたちは、歪んだ心を持ってヨセフを殺そうという計画を企てたのです。

■ ユダの変化

ユダの判断は妥協の人生でした。自分の中に正しい信念がなかった為、いつも周りの意見に流されて妥協するという過ちを犯しました。だからと言って頑固になることが良いわけでもありません。

私達は正しい事にいつも敏感であり、最善に判断を仰ぐ事ができる、尊敬される人でありたいと考えます。ユダは「マスターベーション」の語源となる罪を息子たちに犯させた為、息子達は死んでしまいました。

「若干正しい+正しい」というのは、妥協して正しい事をしていっているように見えても、それは正しい事とはなりません。ユダは度重なる失敗を犯した後「間違った判断=妥協」は止めようと決断できるようになり、父ヤコブの前で「私に責任を負わせてください」と、今までの方法とは別の方法を選んでいけるようになりました。私達は選択することができます。失敗やうまくいかなかったことは悪いことではありません。私達は失敗を通して人生が変えられていくのです。

■ ヤコブの変化

ヤコブのズレた価値観によって、子どもたちは過ちを犯す人生をたどりましたが、ユダが神の元に立ち返ったことで、ヤコブも自分が本来すべき決断を選ぶことができました。

私たちもどちらの生き方で生きるか決断することが出来ますから、「できません」「致しません」「人のせい・環境のせい」という、自分を偽った生き方をやめる決断をしていく必要があります。与えられている場所で尊敬され愛される歩みをしていきましょう。

■ 人生の苦しみをいかに苦しむのか!?

＜男性としての責任＞

ユダの名の意味は、「今度は主をほめたたえよう」で、ヘブル語ヤーダー「感謝」「賛美」からきています。

ユダは早くから兄弟の中で指導力がありました。その兄弟の中で殺そうと考えられていたヨセフでしたが、ユダは「ヨセフを殺してはならない」と考え、ドタンでミデヤン人に売ろうと兄弟たちを説得した事でヨセフのいのちを救いました。

そして、兄弟たちの間で指導権を握る様になったユダというのは、ダビデやイエス・キリストにつながるユダ部族の先祖になります。

ヤコブの死の直前に与えられた祝福は、ユダの指導権、勝利、部族の安定の約束であり、通常メシヤ預言であると理解されます。

- ・ユダ 創 29：35 レア ユダ出生時
- ・「今度は主をほめたたえよう」 ユダと名づけた
- ・ヘブル語ヤーダー「感謝」「賛美」
- ・ユダは早くから兄弟の中で指導力があつた。
- ・ユダはドタンでミデヤン人にヨセフを売ろうと兄弟たちを説得してヨセフのいのちを救った (創 37：26-28)。
- ・創 38章 恥ずべき行為は、彼の記憶の汚点
- ・彼は兄弟たちの間で指導権を握る (創 43:3, 46:28, 49:8-12)
- ・ユダは、ダビデ (ルツ 4：18-22)

イエス・キリスト (マタ 1：3-16) の先祖に
・死の直前のヤコブの祝福 (創 49:9-10) はユダの指導権、勝利、部族の安定の約束であり、通常メシヤ預言であると理解される。ユダは多くの失敗をし、その妥協と間違った決断によってとんでもない出来事がたくさん起こります。そのようなマイナスの多い人生でしたが、ユダは自分の罪を認めて神様に立ち返りました。そこからの人生は上記に記されているとおりです。

さいごに

自分を保とうとするものに対して、神は神の祝福をもたらします。

男性は尊敬を受けなければ成長することができません。尊敬されることは神様からのプレゼントです。だからこそ、女性の役割は重要です。たとえ尊敬ができないような出来事があつたとしても、男性を立てるためには、女性は男性を建て上げていくという意識を持つことが大切です。

神が諦めなかったように、ユダは回復の道を歩むことができました。

女性と男性は役割がちがいますから、決断者としての男性、それを支える女性の両輪がそろわないと御国を建設して行くことはできません。

ケネディ大統領の部屋にどんな時にも入ることを許されていたのは息子でした。神様も私達にそのようにしておられます。私達は神様の子どもです。

あなたの言動や行動は、息子 (任された人) に聴かれたり、みられたりしてもやましくないでしょうか？

子ども (任された人) と接する時にあなたは本当の姿をみせて神の前に出ているでしょうか？

あなたと神の距離があなたの子 (任された人) と神の距離になっていきますから、ヤコブの様に手を挙げて祈り、次の世代に正しい価値観を継承していきましょう。

(要約者:辻 総一郎)

(2024年6月16日)